

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みにになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインと其中的の漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

摂食障害治療ガイドライン

日本摂食障害学会 摂食障害治療ガイドライン作成委員会 (代表: 中井義勝 京都健康科学研究所所長、永田利彦 大阪市立大学大学院准教授・神経精神医学、西園マーハ文 東京都医学総合研究所「心の健康づくりのための予防・治療・リハビリ法」プロジェクト副参事研究員)
医学書院、2012年2月1日 第1版第1刷発行

■1 六君子湯

疾患:

消化器症状

有効性に関する記載ないしその要約:

広義の薬物療法としての対症療法の栄養療法の補助的側面の項に、下記の記載がある。
『消化器症状の改善に使用されるものにモサプリドクエン酸塩水和物、ドンペリドン、テプレノンや漢方薬として六君子湯などがあげられます。』